

特集 「第9回研究・実践成果発表会」

当事業団では、取り組んでいる実践や障がい福祉に関する知見を、形として取りまとめ、対外的に情報発信していくことが重要な役割であると考えています。

そのため、日ごろから研究していることや取組の成果、今後取り組むべき課題などを取りまとめて発表を行う「研究・実践成果発表会」を開催しています。

また、この発表会は、施設での取組や抱える課題などの情報を、施設の垣根を越えて職員全員で共有するとともに、共有した情報を足がかりに、事業団のネットワーク・総合力を活かした、新たな事業の展開へと結びつけていくことも、大きな目的としています。

9回目を迎える発表会

9回目となる今回は、第1部「事業報告」として、事業団の各施設・事業所で実践している取組の報告を行い、第2部「研究・実践成果発表」として、事前を選考された4編の論文発表を、平成28年11月11日（金）に福岡市市民福祉プラザにおいて開催しました。

各論文の発表の後には、活発な質疑応答も行われ、会場は、情報の発信・交換・共有の場となり、とても有意義な発表会となりました。

情報の発信と事業内容のアピールのために

第1部「事業報告」の目的は、主に「関係機関等に対する福祉情報の発信」と「事業団の事業内容のアピール」を行うことです。今回は、「障害児の豊かな食を育む」、「療育センターにおけるペアレントトレーニング「P ステップ」の実践」及び「引きこもりがちな発達障害者への支援」の報告を行いました。

いずれの発表も、先駆的・モデル的かつ事業団の専門性を活かした事業の報告となりました。

更なる事業の展開に向けて

第2部「研究・実践成果発表」の目的は、主に「福祉分野に関する各種情報の相互発信による専門性の向上」と「事業団のネットワークを活かした更なる事業の展開に結びつける」ことです。

今回は、当事業団が、充実・強化する事業として明確化している「障がい児支援」、「発達障がい者支援」、「強度行動障がい者支援」、「相談支援」、「就労支援」を中心に、事業団の総合力を活かした連携支援などをテーマとした、16編の論文が、各施設から提出されました。



ふくふくホールステージ上での発表

発表会に290名が参加

発表会には、当事業団職員・役員だけでなく、福岡市議会第2委員会、福岡市役所などの行政関係者及び関連企業、その他関係団体など、多方面から290名を超える参加がありました。

選考方法は？

提出された全16編の論文の中から、事前を実施した論文審査により、「優秀賞」として4編を選考し発表を行いました。

さらに、当日の発表審査も加味して、「最優秀賞」と「外部審査員特別賞」を各1編選考し、表彰しました。論文・受賞一覧は7頁をご参照ください。



関係者の皆様等、多くの参加がありました。